

井原市公共交通会議（平成 25 年度第 5 回） 会議概要

と き 平成 26 年 2 月 10 日（月）

10 : 00～11:40

ところ 市役所 5 階 501・502 会議室

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 実出席 19 名 代理出席 2 名

2) 三宅会長あいさつ

3) 前回の会議概要説明（事務局）

2. 協 議

自家用有償旅客運送（芳井・美星）運行経路の変更（案）について

・ 事務局説明

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

芳井地区・美星地区とも、バスで通学する児童の状況に応じて、経路や進行方向の見直しを行っているものである。

ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。

質問無し （協議事項承認）

3. 報 告

①住民アンケート実施結果の概要について

・ 事務局説明

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

井原市地域公共交通総合連携計画（H23 年 3 月策定）に掲げる 3 つの数値目標のうち、「バスに月 1 回以上乗る人の割合」は 9.8%で目標の 10.0%に届かないながらも概ね達成、「バスのサービスが低いと感じている人の割合」は 23.3%で若干の改善はあるものの 15.0%という目標には少し遠い数字ということであった。

井原市の高齢化率（全人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、本年 1 月末現在で 32.6%であり、平成 37 年には 37.0%に達すると予測されている。このことから、公共交通の潜在的な利用者は少なくないと考えられる。今後、どのように知恵を絞って公共交通を維持・確保していくかが非常に大きな課題である。

②岡山大学との交通まちづくり共同研究事業の中間報告について

・ 橋本委員説明

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

細かな分析をしていただき、今後の課題がたくさん抽出されたと感じる。住民代表の方からご意見はないか。

（委 員） 美星地区のバスが運行されていない集落等では、NPO 法人による自家用有償運送や、タクシー事業者による福祉タクシーを利用する人も多い。

（三宅会長） NPO 法人による自家用有償運送については、公共交通を補完する手段として大変なご支援をいただいている。そういった交通手段を含めて考えてもらえば、美星地区の満足度は回答結果の数値以上に高いのではないかと思う。

評価指標については、現在の若干曖昧なものを見直して、満足度をより客観的な

指標とする工夫が必要との提案であった。本年4月に最終的なものを示していただけるとのことなので、今後もみなさんとともに議論を深めていきたい。

4. その他

- (事務局) 野上地区まちづくり協議会の活動についての経過報告
- (三宅会長) 公共交通空白地区となっている野上町の福良地区にも以前は井原あいあいバスが通っていたが、利用が少ないため隣の森谷地区までに短縮され現在に至っている。時とともに需要も変わるため、これから何年か先を見越した公共交通の改善案を、野上地区の住民全体で考えるというのが活動の趣旨である。
- (三宅会長) 本日の議題全体を通じて、委員のみなさんから質問等はないか。
- (委員) 利用者が公共交通に求めることは、「安全」「安心」「利便さ」等に集約されると思う。アンケート調査の分析結果によると、今後、「学校や病院の時間を踏まえたダイヤ」「行きたい場所に行くことのできる経路」「鉄道やバスとの乗り継ぎ」等を重点的に考える必要があるとのことであった。アンケート調査はそういった要望を把握するのに大変有効だが、回収率(36.9%)がもう少し高ければさらに良かった。私の手元にも調査票が届いたため回答したが、設問が多く、公共交通を普段利用しない人が答えてくれるか気になった。例えば、「公共交通に何を求めますか」といった簡略化した一枚の調査票にまとめることができれば、もっと多くの市民から幅広く意見や要望を得ることができるのではと感じた。
- (三宅会長) 先般行った井原市総合計画に関するアンケート調査の回収率は、やっと50%を超える程度であった。ましてや公共交通となると、普段利用しない人はなかなか答えようという気になりにくい。そういう目で見ると、今回の回収率は決して低くないのではないかと。調査票を簡潔にして回収率を高めることと、細かな質問により潜在的な意識まで把握することとは相容れない部分があるとは思いますが、今後の調査ではより多くの意見を取り入れて実施することとしたい。
- (委員) 先日の井原放送の番組で、市内の小学生にバスの車内アナウンスをしてもらうという取組が紹介されていた。それを見て、「バスに乗ったおじいちゃんやおばあちゃんがきっと喜んでくれるだろうな」と暖かい気持ちになった。また、子どもたちのバスへの愛着を高めるよい取組であると感じた。
- (事務局) 公共交通会議において事業実施の承認をいただき、昨年10月の路線・ダイヤの見直しを受けて、「子ども車内アナウンスバス」事業に取り組んでいる。子どもたちのバスへの愛着や郷土を愛する心を育むとともに、地域住民のさらなる利用促進を目的とした事業であり、現在、小学校各校において録音を行っている。3月中旬頃の運行開始を予定している。運行開始が確定次第お知らせしたい。
- (三宅会長) 子どもの声でアナウンスをすることで、親御さんや家族と一緒にバスに乗るきっかけになるのではと思う。バスに乗るのを躊躇する人にとって、「子どもたちの声を聞いてみたい」「孫の声を聞いてみたい」という気持ちがバスに乗ることへの後押しになればよいと思う。

5. 閉会

仁科副会長あいさつ

以上